のうせきずいえきげんしょうしょう

脳脊髄液減少症をご存知ですか？

早期発見・早期治療が最も大切！対処法を知り、重症化を防ぎましょう！

どんな病気？

脳脊髄液減少症は
脳・脊髄を浮かべている
「脳脊髄液」が減ることで、
さまざまな症状がでる
病気です。

主な症状

起立性頭痛・耳鳴り
めまい・吐き気
視力低下・光がまぶしい
首～腰痛・手足のしびれ
全身のだるさ・疲れやすい
思考力・注意力の低下など
体調は天候に左右されやすい。

脳脊髄液が減る原因

軽いけがや、医療行為が原因となる場合もありますが、
原因不明の場合もあります。

発症の引き金となった事故

交通事故(追突・接触・同乗)
転倒(自転車・スキーなど)、尻もち
背部・頸部打撲(柔道・マット運動)
頭部打撲(ボールが頭を直撃)
転落(階段・遊具・組体操)・暴力
椅子引き・衝突・その他

比較的軽微な事故やけがなど、頭部や体への強い衝撃が
なくても、発症する場合があります。
症状が改善しない（悪化する）状態が長期化する場合は
受診をおすすめします。

けが以外の原因

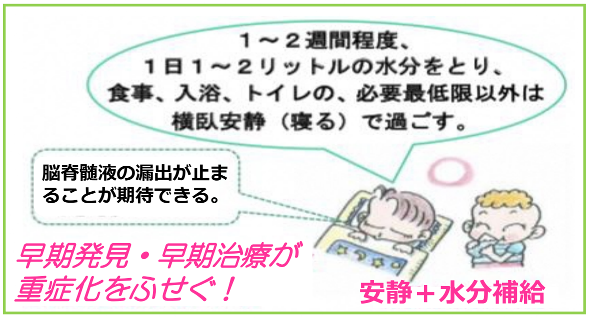
脱水を起こすような発熱、大汗をかいた際の水分摂取不足
検査・手術時の腰椎注射、出産、その他

子どもたちは 社会の認識不足から誤解も…

- **医療機関では、起立性調節障害、片頭痛、心因性などと診断される場合があります。**
- **学校では、「不登校」、「怠けている」などと誤解されることもあります。**

初めに行う対処法は！

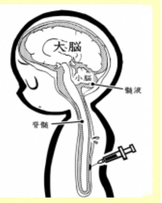
起立性頭痛など脳脊髄液減少症を疑う症状が続いたら
水分を多めに取り、横になって過ごすことが症状改善
に有効。特に子どもには効果が大きい。



治療法は？

こうまくがいじかけつちゅうにゅうりょうほう
ブラッドパッチ治療法(硬膜外自家血注入療法)が
効果的な治療法です。

本人の静脈血を硬膜外腔の髄液が漏れて
いる周辺に注入し、血液が固まる性質を
利用して漏れを塞ぐ。



＊硬膜(脳・脊髄を覆う膜)
の外側の空間

☆治療後は、効果があっても
数ヶ月は重い物は持たない。
★体への強い衝撃を避ける。
☆体育の授業は見学するなど
周囲の理解が必要です。

◆子どもは特に画像診断が難しいことなどから、
症例数の多い専門医への受診をおすすめします。

各県の公式サイトで病院情報をご確認、または、
病院や診療科についてのご質問は **子ども支援チーム**に
お問い合わせください。

監修：兵庫県明石市　明舞中央病院　副院長　中川紀充

お問い合わせは

脳脊髄液減少症患者支援の会子ども支援チーム

http://www.kodomo-cfh-support.net/

E-mail　kodomo-cfh@amail.plala.or.jp　　Tel＆Fax　04-7154-3084